



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部



発行人：阿波谷敏英,川上和徳  
事務局 〒761-2103  
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
綾川町国民健康保険陶病院気付  
副支部長/事務局長 川上和徳  
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
E-mail jpicaardk@yahoo.co.jp

★ 2026年度 日本PC学会四国ブロック支部 家庭医療／総合診療専門研修 オリエンテーション・ポートフォリオ発表会を開催

専門研修支援委員 植本真由 (高松平和病院)

2026年度 日本PC学会四国ブロック支部 家庭医療／総合診療専門研修 オリエンテーション・ポートフォリオ発表会が、2026年4月18日(土)13時30分～16時30分に、HITO病院大会議室およびオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。

今年度の参加者は総勢55名(現地参加31名、オンライン参加24名)で、新専攻医4名(うちオンライン参加2名)、2年目以上の専攻医7名、指導医・その他44名でした。

開会にあたり、阿部雅則先生(愛媛大学)よりご挨拶をいただきました。

新専攻医の自己紹介では、これまでの多彩な経歴や、今後どのような家庭医・総合診療医を目指していきたいかについて知ることができました。



専攻医部会の紹介を、馬越隆光先生(陶病院)にいただきました。



ポートフォリオ発表会では、中平啓倫先生(愛媛大学)が領域[16b. 人生の最終段階におけるケア]を、壁谷篤仁先生(あき総合病院)が領域[12a. 複雑困難事例のケア]を発表されました。司会は菊池明日香先生(愛媛大学)が務め、コメンテーターとして佐藤真一先生(高知生協病院)、近藤啓介先生(こんどうファミリークリニック)にご参加いただきました。専攻医の先生方が日々の診療や看取りの場面において、患者さんがより良く過ごせるよう悩みながら学び、成長していく姿が伝わる発表でした。

メイン講演では、五十野博基先生(HITO病院)より「総合診療医というキャリアの作り方」と題してご講演いただきました。前半の15分でこれまでのキャリアについてお話いただき、後半の40分は専攻医や会場

参加者からの質問に答えていただく形式で進められました。専攻医の先生方からは、現在抱えている悩みや、五十野先生のこれまでの取り組みに関する質問が時間いっぱい寄せられました。五十野先生と専攻医とのやり取りは、参加者にとっても日々の診療や教育について振り返る貴重な機会となりました。参加者からは、「とてもワクワクしました」「早速、できそうな業務改善から始めてみます」といった感想が寄せられました。

閉会にあたり、阿波谷敏英先生（高知大学）よりご挨拶をいただきました。

オリエンテーション終了後の専攻医交流会には、現地参加の専攻医全員が参加し、大いに盛り上がりました。



ご参加いただいた先生方、誠にありがとうございました。来年度も新専攻医オリエンテーションを開催予定です。専攻医・指導医に限らず、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

★ **【開催案内】第26回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会 / 第33 四国地域医学研究会 合同学術集会**

大倉佳宏（健生石井クリニック）

11月7日（土）・8日（日）徳島県にて「第26回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会 / 第33 四国地域医学研究会 合同学術集会」を開催いたします。

◆**大会長メッセージ：～ ひろがる、ひろげる。総合診療 ～**

総合診療専門研修が開始して8年、家庭医療専門研修が開始されてから丸20年が経過しました。現在、全国で総合診療専門医は1,250名、家庭医療専門医は1,300名を超え、超高齢社会や地域課題を解決する重要な鍵として、その存在はますます注目を集めています。

四国においても、医療過疎地域はもちろんのこと、都市部においても質の高いプライマリ・ケアを提供する専門医の存在は重要です。しかし、2026年4月現在、四国の総合診療専門医数は19名、家庭医療専門医は23名と、他地域に比べてまだまだ足りないのが実情です。

だからこそ、今、少しずつ見え始めている「総合診療のひろがり」を、確かな力に変えていきたいと思ってい

ます。

今大会は、学生や地域住民の方々へ総合診療や家庭医療がどのように広がってきているのかを知り、さらに広げていくために「私たちに何ができるのか」を共に考える場です。参加した皆様全員に「もっとひろげるぞ！」という熱い思いを持ち帰っていただける大会を目指します。

#### ◆プログラム・見どころ

・特別講演：岡山県奈義町の「奈義ファミリークリニック」にて、家庭医療専門研修が始まる前から家庭医教育を牽引してこられた松下 明 先生（岡山家庭医療センター）をお招きします。大会長の恩師でもある松下先生から、これまでの取り組みや家庭医療の発展の軌跡についてお話しいただきます。

・シンポジウム：徳島の「今」から四国全体へ 徳島県内のさまざまなフィールドで総合診療をひろげているフロントランナーの皆様にご登壇いただきます。徳島発の熱い思いを、四国全土へ届けます。

#### ◆誰もが参加しやすい、つながる学会へ

本大会は、一人でも多くの方にご参加いただけるよう、以下の環境を整えております。

・ハイブリッド開催： 当日会場にお越しいただくのが難しい方も、オンラインで全国どこからでもご参加いただけます。

・託児所の設置： お子様連れの方にも気兼ねなくご参加いただき、安心して学べる環境をご用意しております。

・懇親会の開催： 対面参加ならではの醍醐味として、多職種や世代を超えた交流の場です。

#### ◆皆様へ

次世代を担う学生や研修医の皆様、そして地域医療を支えるすべての職種の皆様。同じ志を持つ仲間と出会い、語り合い、そして明日からの現場への活力を持ち帰ってください。

11月7日・8日、徳島でお待ちしています！

第26回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック  
支部地方会/第33四国地域医学研究会 合同学術集会



認知度が高まる「総合診療」

私たちは住民・医学生・医師にどのように広げていけばよいのか？

考えていきたいと思えます

特別講演：岡山家庭医療センター 松下明先生

シンポジウム

一般演題

ポートフォリオ発表会

大会長：大倉佳宏（徳島健康生活協同組合 健生石井クリニック）

2026.11.7 sat- 11.8 sun

会場：徳島県医師会館（徳島県徳島市幸町3丁目61）

ハイブリッド開催



## ★ 四国ブロック支部長就任のご挨拶

大倉佳宏 (健生石井クリニック)

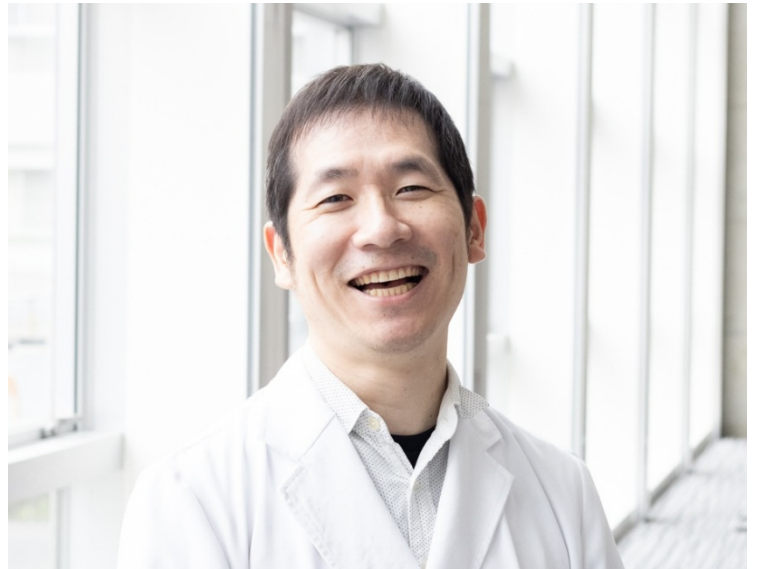
この度、日本プライマリ・ケア連合学会の四国ブロック選出理事、ならびにブロック支部長を拝命いたしました。四国のプライマリ・ケアと総合診療の発展に少しでも役に立ちたいという強い思いと同時に「果たして自分にこの重責が務まるだろうか」という身の引き締まるような思いも感じております。就任にあたり、ご挨拶をさせていただきます。

私がプライマリ・ケアや総合診療の道を志した原点は、学生時代の病院実習で知った「訪問診療」にあります。それまで病院で見る医療が全てだと思っていた私にとって、臓器を限定せず総合的に診ることで、患者さんが入院することなく、住み慣れた自宅で穏やかに過ごせるという事実は大きな衝撃でした。「臓器を専門とせず、人を総合的に診ることの重要性」を肌で感じ、自分もそういう医療に関わりたいという思いが、今の私の根底にあり、この道を歩み続ける最大のモチベーションとなっています。

四国は、総じて高齢化率が高く、また医師の地域偏在も顕著な、いわば日本の「課題先進地域」です。各地域の医療を守っていくためには、総合的に患者さんを診ることができる総合診療専門医や家庭医療専門医が、この四国で多く育ち定着していく仕組みが不可欠です。

また、人口も少なく学会員数も他の地域ブロックと比べても少ない四国では、各県の独自の取り組みだけではなく、4県が連携して協力し合う事がとても重要だと思います。そのために、まずは副支部長の先生方とも緊密に連携し、定期的なミーティングを通じて各県の現状や取り組みを共有し、会員の皆様へ積極的に発信していきたいと思います。

さらに重点を置きたいのが、次世代を担う後進のサポートです。家庭医療専門研修だけではなく総合診療専門研修の専攻医の先生方が悩みや情報を共有し、自信とやりがいを持って研修できる環境を作るため、現在有志で行われているポートフォリオのオンライン作成指導の会などの支援や、専攻医のニーズに合わせた「県をまたいだ学習会」を推進したいと思います。また、日々の臨床の疑問を研究に繋げるPBRN (Practice-Based Research Network) など、四国内で学術的な学びを深められるネットワークや機会の創出も実現したいと考えています。また、更に若い学生のネットワークについても、(学生部会の地域グループは中四国ですので、)中国ブロック支部とも連携しながら、四国内の学生がプライマリ・ケアに触れる機会を作っていきます。



私自身、学会内では診療データベース委員会や専門医部会学術部門、そして専門医制度認定委員会など、研究や教育、制度設計に関する学会活動に携わってまいりました。今回新たに「SDH (健康の社会的決定要因) 検討委員会」にも副委員長として参加いたします。これまでは一学会員として委員会活動に参加してきましたが、今後はブロック選出理事として、四国ブロックを代表する気概で、より一層責任感をもって委員会活動に参加し、これらで得た最新の経験や情報を、四国ブロックの教育活動に直接還元していきたいと思っています。

「四国で研修をしたい」と願う専攻医が増えるように。四国で学んだ学生が「家庭医・総合診療医を目指したい」と思ってくれるように。そして今、四国でプライマリ・ケアに関わる全ての医療者が「ここで働くことに

やりがいがある」と誇りを持てるように。

私は支部長として、そのような魅力ある「風土づくり」に全力を注いでまいります。四国4県の皆様、そして地域医療を共に支える多職種の皆様と力を合わせていきたいと願っております。まだまだ未熟ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ★ 四国ブロック支部長退任のご挨拶

阿波谷敏英 (高知大学医学部)

この度、四国ブロック支部長を退任するにあたり、ご挨拶申し上げます。

私が四国ブロック支部長に就任したのは2016年度でしたので、ちょうど10年、携わらせていただいたこととなります。会員の皆さまには大変お世話になり、心より御礼を申し上げます。事務局長として支えていただきました大原昌樹先生、川上和徳先生にも感謝を申し上げます。

板東浩先生からブロック支部長のバトンを受け継いだ10年前は、四国で初めての学術大会の開催された年でした。また、新しい専門医制度の始まる直前で、四国内でも家庭医療専門研修プログラム(旧制度)が増えてきていました。四国ブロック支部長としては、その流れを新しく始まる総合診療専門研修に繋げることが最重要のタスクだと感じていました。新しく設置した専門研修担当の副支部長にご就任いただいた原穂高先生には、本当にご尽力いただきました。ポートフォリオ発表会(春・秋)、専攻医オリエンテーション(春)もブロック支部の行事として、すっかり定着させていただきました。こうした行事に参加するたびに、若い専攻医の先生方が成長している姿を拝見でき、こちらにもエネルギーをいただいております。

地方会は、その年の大会長が手さぐりで運営していた状態で、開催時期や名称も年によってバラバラでした。支部役員会で「地方会」と名称を統一すること、毎回、四国地域医学研究会との合同開催とすることをお認めいただきました。四国地域医学研究会を主催する地域医療振興協会のご協力で運営を安定させることができました。資金面はもとより、コロナ禍において始まったオンライン環境の構築の面でもずいぶん助けていただきました。また、杉山圭三先生の提案で運営マニュアルを作成し、毎年、更新を重ねながら、歴代の大会長に引き継がれています。こうした取り組みにより、地方会が安定して開催できるようになったと実感しています。

また、2016年の学術大会の開催を機に、四国ブロック支部プライマリ・ケア功労賞を創設し現在も継続しています。これまで四国のプライマリ・ケアの発展に貢献いただきました5人の方に授与させていただきました。

支部会誌、ニュースレターも編集を担当いただいた板東浩先生、杉山圭三先生のおかげで欠号もなく続けることができています。四国ブロック支部の歴史をきちんと刻んでいけているように感じています。

こうやって10年を振り返ると、多くの方のご尽力により、ブロック支部が成熟し安定してきたように思います。私もブロック支部長として、そのお手伝いできたのは無上の喜びです。しかし、いつまでも古い人間がのさばっているのは組織の発展もないと考えておりましたところ、良いタイミングで大倉佳宏先生にバトンタッチできることになりました。大倉先生には若い感覚で四国ブロック支部を牽引していただくことを大いに期待しています。私も1人の会員として四国ブロック支部の発展を見守りたいと思います。

これまでお力添えいただいたすべての皆さまに感謝申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

## 【新しい総合診療専攻医のご紹介】

### 荒木 智尋 先生 (香川大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム)

皆様はじめまして。4月より香川大学医学部附属病院にて、総合診療科プログラムを始めさせていただきました荒木智尋(ちひろ)と申します。地元は香川県丸亀市で、将来も地元丸亀市で働きたいと地域枠で香川大学に入りました。総合診療科と救急科のダブルボード取得を目指しております。

今の私の目標は、「とりあえずなんとかします！」といえる医師になることです。

振り返れば、医師を志したきっかけは、家族や友人など身近な人たちに何かあった時に助けられるようになりたいというものでした。大学に入った当初は、救急医を志していました。急性期疾患を幅広く対応する救急科は、前述の目的に沿うものでした。しかし、大学3年生で友人に誘われて臨床推論勉強会になるものに参加して、初めて総合診療科なるものに触れました。そこで診断学の面白さに触れるとともに、患者さんの背景まで考慮に入れる姿に衝撃を受けました。私のやりたかったことはまさしくこれだ！と興奮したのを覚えています。

一次予防に積極的に関与したり、社会的な問題に介入したりなど、難しく言えば様々な表現ができますが、とにかく目の前で困っている人をなんとかしてあげたいというのが私の願望です。そんなこんながあり、総合診療医を志すようになりました。

その後医師免許を取得し、臨床に立つ中で、やはり救急初期診療にも興味があり、重症緊急疾患についても「とりあえずなんとかします！」と言えるようになりたいなあという野望があり、現在は救急科とのダブルボード取得を目指しております。

無事に初期研修が終わり、大学での研修が始まりましたが、日々充実してめまぐるしく過ごしております。自分は直感タイプなので、アカデミックな勉強に慣れなかったり、他専門医の知識に圧倒されたり、鑑別すべき疾患が多すぎて絶望したり、知らない社会資源も多く人生経験の浅さを思い知ったりしていますが、たまにある患者さんの役に立てた瞬間がとて素晴らしいです。先生方も親身に指導してくださり、総診+救急のダブルボード取得という大学初の試みを応援してくださり、感謝してもしきれないほどです。

また、学外においてもPC学会その他勉強会など、総合診療に携わっている方々が声をかけてくださったりと非常に手厚いサポートをいただいております、恵まれているなあ日々感じております。

あこがれだった世界で、一人の医師としてこれから皆様とともに働くことはこの上ない幸せです。

「とりあえずなんとかします！」と胸を張って言えるように、日々努力してまいりますのでこれからもご指導ご鞭撻のほど、何卒お願い申し上げます。



## 岡本 修 先生 (あき総合病院総合診療専門研修プログラム)

卒後5年目の岡本修(しゅう)です。

1996年高知市出身、神戸大学に進学、卒後あき病院で初期研修含め4年間勤務し、今年度より総合診療専攻医として、現在は高知医療センターにて救急研修を行っています。



初期研修修了から2年間あき病院の内科で勤務させていただきました。自己研鑽に励んでいれば肩書にこだわる必要はないと考えていたためです。

しかし臨床で働く中で、色々な患者さんと、家族と、地域の方々と話すうちに、また色々な医師と、看護師さん、リハビリスタッフさん、栄養士さん、ソーシャルワーカーさん等々と働く中で、自分の視野の狭さや自分一人のなせることの小ささを痛感してきました。

今回専攻医として在宅医療～三次病院まで、幅広い医療機関で働くことにより、色々な視点を手に入れ、各人の視線を理解できる医療人になれるように、自分の診療が患者さん及び家庭の幸福、ひいては地域の健康につながるように、また自分の働きが、専門医プログラムの熟練や後進育成、ひいては高知・四国の総合診療の発展へとつながるように、日々尽力してまいります。



## 森保 賢治 先生 (海南総合診療専門研修プログラム「あまべ総診」)

はじめまして。徳島県の海陽町にある町立海南病院にてあまべ総診プログラムの専攻医となった森保賢治と申します。

私は以前からどんな土地に住んでどんな人とどのようなことをして暮らすかということがとても大事だと考えていました。

そんな中でもともと徳島大学出身だったことで縁があり、初めて海陽町を訪れた時にとっても驚きました。高知と徳島の県境のいわゆる僻地だとは思いますが、私の地元の鎌倉と似て綺麗な海と山があり、サーフィンが盛んで、さらにとっても綺麗な川の水があります。海外の人も多くインターナショナルな雰囲気すら感じることがあります。

また旧海部町は自殺率の非常に低い街として本になったこともあるような土地です。

そのような環境に惹かれて多くの人に移住してきているのを知りました。そしてこのような



環境を選んでいる人は農業や食、文化、歴史、サーフィンなどにとっても造詣が深くそれぞれビジョンを持っていてとても魅力的でした。

その中の1人が海南病院で総合診療科医として働く國永先生でした。自分のマインドや生き方を考えた時に医師として働くなら、総合診療や家庭医のような形でローカル寄りな仕事がしたいなと漠然と思っていました。色々なタイミングや条件が合致し住んで、働いてみようと思ったのが今年の9月です。そこから半年経ち、4月からはプログラムに入り専攻医として働きはじめました。

今の社会や自分の生き方などを考えた時に都会ではなく田舎に住んでみたいなと思っていたタイミングで、このような町と病院に出会うことができるととても幸運だったと思います。

病院では入院、外来、訪問診療を担当しています。それぞれの違いや、対応する病態、臓器の多さ、急性期の対応から社会的な背景まで考慮する必要があるのでとても難しいですが、毎日全てが学びになるなと感じております。

さらに小さい町なので、町長や町議会の議員さん達とも飲みの席なので一緒になることもあり、地方政治の中の町立病院という見え方も経済的なところも含めて実際の状況を感じることができます。これは大学生や大学病院の研修医だった頃にはなかなか感じることはできなかったポイントだと思います。

医師として働きながら生活者として町に住む難しさはあると思いますが、うまく折り合いをつけつつ、医学の修行と、町の内外のさまざまな人々からの学びも得て、サーフィンも上達して有意義な時間を過ごせればと考えております。

## 吉永 孝優 先生 (海南総合診療専門研修プログラム「あまべ総診」)

海南病院総合診療科専攻医の吉永孝優です。

現在、海南病院で総合診療の研修を行っています。私は徳島県出身で、専攻医の研修先を考える際には、総合診療医として幅広い症例を経験できることはもちろん、地域とのつながりを感じながら働ける環境を重視していました。その中で、急性期医療から地域医療まで幅広く学ぶことができる海南病院に魅力を感じ、研修先として選択しました。

また、私自身の趣味であるサーフィンも海南病院を選ぶきっかけの一つでした。海陽町には全国的にも知られる生見海岸があり、多くのサーファーが訪れます。豊かな自然環境と地域の温かい雰囲気惹かれ、「この地域で働きながら生活したい」と感じたことを覚えています。

総合診療の魅力は、臓器や疾患にとらわれず、まず患者さんそのものを診ることができる点にあります。救急外来では何科に相談すべきか分からない患者さんを最初に診察し、病棟や外来では複数の疾患や生活上の課題を抱える患者さんに関わります。患者さんの背景や価値観を理解しながら診療方針を考える過程に、総合診療ならではの面白さとやりがいを感じています。



先日開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会では、「サーフィンと地域医療」をテーマに発表する機会をいただきました。発表準備を通じて、サーフンは単なるスポーツではなく、人と人とのつながりや地域コミュニティの形成に大きな役割を果たしていることを改めて実感しました。海を目的に訪れた人が地域と関わり、移住や交流につながることも少なくありません。地域の健康や活力は医療だけで支えられるものではなく、文化や趣味、コミュニティなど様々な要素によって形作られていることを学びました。



これは総合診療の考え方にも通じると感じています。私たちが向き合うのは病気だけではなく、その人の暮らしや地域との関わりを含めた生活全体です。地域に根差した医療を実践する上で、患者さんを取り巻く環境に目を向けることの大切さを日々実感しています。

まだ専攻医として学ぶことばかりですが、多くの方々に支えられながら研修を続けています。今後も地域に寄り添う総合診療医を目指し、診療・研究・地域活動に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 渡邊 啓吾 先生（高知家総合診療専門研修プログラム）

はじめまして。高知家総合診療専門研修プログラム1年目、あおぞら診療所高知潮江に勤務しております、渡邊啓吾と申します。私は大阪府高槻市の出身です。振り返ると、かなり遠回りをしながら医師になった人間だと思っています。高校卒業後、立命館大学へ進学しましたが、自分の進む道を見つけることができず中退しました。その後、「何か答えが見つかるかもしれない」と思い、国際NGO活動に参加し、船で世界各地を巡りました。さまざまな国や文化、人々の価値観に触れ、多くの刺激を受けましたが、一方で、自分自身が何をしたいのかは見つかりませんでした。帰国後は東京で不動産営業の仕事に就きました。営業という仕事を通して、人と関わる面白さや社会の厳しさを学びましたが、次第に「もっと人の役に立つ仕事がしたい」という思いが強くなっていきました。

一方で、父は若年性アルツハイマー病を患っており、中学生の頃から、長年介護を続ける母の姿を間近で見えてきました。父が亡くなったことをきっかけに、「医療を通じて、人や家族を支える仕事がしたい」と強く思うようになり、医学部受験を決意しました。しかし、現実には簡単ではなく、生活費を稼ぎながらの受験生活でした。新聞配達、弁当配達、パチンコ店勤務など、さまざまなアルバイト



をしながら勉強を続け、なんとか高知大学医学部に合格することができました。

卒業後は、高知県立あき総合病院で初期研修を行い、その後3年間、高知大学附属病院などで麻酔・集中治療科に所属しました。急性期医療や全身管理、チーム医療を学ぶ中で、医療の奥深さと責任の重さを実感しました。一方で、病気だけではなく、その人の生活や家族背景まで含めて支える医療を行いたいという思いが次第に強くなり、現在はあおぞら診療所で在宅医療に携わっています。

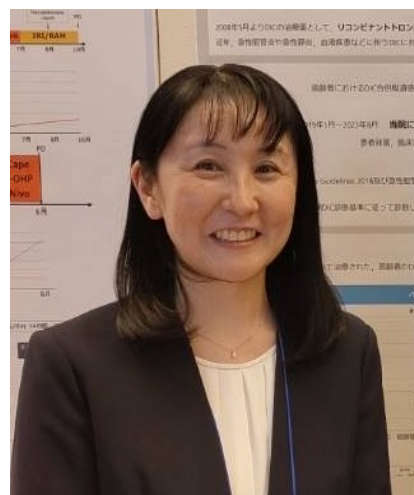
在宅医療では、病院では見えにくかった患者さんの生活や価値観、ご家族の思いに日々触れています。医療だけでなく、介護、福祉、多職種連携など、多面的に人を支える総合診療の魅力を強く感じています。私はこれまで、迷い、遠回りを繰り返してきました。しかし今振り返ると、その経験一つひとつが、患者さんやご家族の思いに寄り添うための糧になっているように感じています。

今後は、「困った時にまず相談できる」「今すぐ会いに行ける」ような、距離の近い総合診療医を目指して、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。まだまだ未熟ではありますが、四国の先生方から多くを学ばせていただきながら成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【新しい総合診療専門医のご紹介】

#### 遠藤 日登美 先生 (三豊総合病院)

2001年に自治医大を卒業し、義務年限内は陶病院や綾上診療所、山形県の八幡病院や松山診療所でそれぞれの特徴の中で診療を経験してきました。2011年からは三豊総合病院で健診や産業医、診療所勤務などを中心に仕事を行い、徐々に診療現場へと戻ってきました。2023年当院へ果敢に飛び込んでくれた専攻医の馬越先生をきっかけに総合診療専門研修プログラムが動き出し、内科とは違うプログラムの特性に右往左往していましたが、様々な先生に助けて頂きながら、また馬越先生の頑張りのおかげで馬越先生の3年間のプログラムを終了することが出来ました。地域医療で行っている様々なスキルを言語化してより深め、伝えていく作業が家庭医療学を作っており、その奥深さにまだまだ勉強することがたくさんあると感じています。現在は健康教室や健康診断、学校医、産業医、診療所業務などの仕事にプラスして外来から入院管理間まで幅広く仕事を担いながら、学生実習や研修医指導も行っています。子育てが一段落してきた今、学生教育や研修医指導にやりがいを感じています。若い先生から教わることも多くあります。昨年には総合診療専門医を取得することができました。50歳を過ぎてもまだ役割があることに感謝しつつ、自分も成長していきたいと思っています。マイペースな私ですが今後ともよろしくお願いいたします。



#### 大原 昌樹 先生 (綾川町国民健康保険陶病院)

令和7年度の日本専門医機構総合診療専門医試験に合格し、専門医資格を得ることができました。65歳にして専門医試験を受ける必要はあるのか、記憶力が衰えているのに合格できるのか、日々多忙で勉強する時間はあるのか、など不安だらけでの受験でした。ただ、当院のような小規模病院は、今後、総合診療が柱になると以前から考えており、総合診療専門医が在籍してほしいと考えていました。令和6年度に専攻医として馬越隆光先生が赴任、幅広い診療領域と視点の多様性を見て、当院の役割にまさしく合致する専門医であることを確信しました。今回、当院からベテラン医師3名が合格し、馬越先生が専攻医研修を終えて再赴任したことにより、「総合診療科」を院内標榜として掲げることとしました。まだまだ取り組むべき課題は多いですが、一步前進と考えています。

日本専門医機構総合診療専門医検討委員会は、特任指導医（基礎資格：JPCAプライマリ・ケア認定医など）が専門医になるのに移行措置を設け推奨しています。受験資格において、総合診療専門研修プログラムに登録している専攻医を特任指導医として6か月以上実際に指導した経験が認められる者となっていました。今年度から、指導歴が6か月未満でも、学生、臨床研修医、実地医家を対象とした総合診療の指導経験（遠隔を含む）が認められる者と大幅に緩和されました。特任指導医は、現行は2030年度までの経過措置となっています。延長される可能性はありますが、専門医移行が望ましいとしています。専門医試験は、朝9時から夕5時まで250問のコンピューターに向き合っただの CBT 試験と1週間後の面接試験です。合格したから言えるのですが、総合診療の幅広さ・奥深さと学ぶことの楽しさを感じました。ベテラン医師にも受験をお勧めします。



今後も微力ながら四国ブロックの発展に寄与できればと考えていますので、よろしくお願いいたします。

### 川上 和徳 先生（綾川町国民健康保険陶病院）

熊本大学時代には公衆衛生や緩和ケアに興味がありました。卒業後は、自治医科大学附属病院や高知医療センターなどの高次医療機関での総合診療、岩手県藤沢病院などの地域医療機関でのへき地医療、訪問診療、その他、高知県行政職などの経験を積んでまいりました。

その後、香川県陶病院に異動し、地域医療を実践するとともに、日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医プログラム実施のために、プライマリ・ケア学会認定医と指導医を取得し、実際、専門医2名の育成に取り組みました。これらの経歴から、総合診療研修プログラムの特任指導医を申請・保持していました。この度、総合診療専攻医を指導したことにより、総合診療専門医の受験資格となり、2025年度に合格いたしました。私自身は、高次医療機関での総合診療よりも、地域に根差した医療を実践する家庭医だと思っています。2024年4月より、大原先生から引き継いで、日本プライマリ・ケア連合学会の四国ブロック支部副支部長兼事務局長、香川県支部長を拝命いたしております。皆様に色々とお世話になることがあるかと存じますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



### 【総合診療専門研修プログラム】

海とともに学び、地域とともに育つ — 海南病院総合診療専門研修プログラム「あまべ総診」

海陽町国民健康保険海南病院 國永 直樹

## 海部郡という地域

海部郡は徳島県の最南端に位置し、徳島県南部Ⅱ医療圏に属しています。古くは『阿波国郡史』にもその名が記されており、令和7年現在は美波町・牟岐町・海陽町の3町で構成されています。

その海陽町に位置する海陽町立海南病院は、徳島県最南端の病院として地域医療の最前線を担っています。当院を基幹施設とする日本専門医機構認定総合診療専門研修プログラム「あまべ総診」は、この海部郡を舞台に、病院の中だけで完結しない総合診療を学ぶことを目指しています。

45床の公立病院である海南病院では、外来診療、病棟診療、救急医療、在宅医療、介護連携、退院支援までを一貫して経験できます。高齢化が進む地域だからこそ、多疾患併存、認知症、ポリファーマシー、人生の最終段階における医療など、総合診療医に求められる幅広い課題に日常的に向き合うことができます。

### ## 教育体制と広がる学び

近年、当院では教育体制の整備を進めています。2023年5月には地方創生医師団によるシンポジウムを開催し、これを契機に徳島大学地域医療サークルをはじめ、多くの医学生が地域実習に訪れるようになりました。2024年5月からは徳島大学医学部の地域医療実習学生の受け入れを開始し、同年7月には徳島赤十字病院から初期研修医が1か月間の地域研修を行いました。さらに2025年4月からは総合診療専門医が常勤医師として着任し、同年9月には広島市民病院から初期研修医を受け入れました。2026年度には全国から5名の初期研修医を受け入れる予定であり、医学生・初期研修医・専攻医が継続して学べる環境づくりを進めています。

また、全国各地から総合診療医が来訪しており、徳島県最南端という立地にいながら、全国の総合診療医と出会い、学べる環境が生まれています。小規模病院でありながら、地域医療の現場と全国的なネットワークがつながっていることも本プログラムの特徴です。

### ## 病院の外へ出る総合診療

当院では院内診療だけでなく、病気の予防や健康づくりにも力を入れています。地域の飲食店と連携した「食」の取り組みや、サーフィンやヨガなどの身体活動を通じた健康増進活動を実践し、町民とともに健康について考える機会をつくっています。

私たちが目指しているのは、病気を治療する医療ではありません。医療・介護・福祉・教育・行政・住民をつなぎながら地域全体の健康を支える「地域つなぎ」です。その結果として、病院だけに依存しない持続可能な医療の実現を目指しています。

また、将来の地域医療を支える人材育成にも力を入れており、医学生や研修医だけでなく、地元高校生を含めた次世代への教育活動にも取り組んでいます。

さらに当院は徳島県の災害拠点病院としてDMATを有しており、南海トラフ巨大地震を見据えた災害医療教育や訓練も行っています。日常診療だけでなく、非常時にも地域医療を守る力を学ぶことは、「あまべ総診」の大きな特色です。

# あまべ総診 始まります！



日本専門医機構から総合診療専門研修基幹施設として認める認定証が届きました！  
2026年4月1日から海陽町国民健康保険海南病院で総合診療専門医を目指すプログラムが始まります。

### ## 「あまべ」に込めた願い

「海部（あまべ）」という地名には、古代より海とともに生き、広大な海原を越えて交流を重ねてきた人々の歴史が息づいています。私たちは、この地域の名を冠した総合診療専門研修プログラム「あまべ総診」に、海陽町立海南病院を出発点として、全国各地で活躍できる総合診療医へと成長してほしいという願いを込めました。



本プログラムが目指すのは、特定の地域や施設だけで通用する医師の育成ではありません。都市部であっても、地方であっても、離島や中山間地域であっても、その地域に暮らす人々から求められる医療を提供できる総合診療医の育成です。患者さんの病気だけでなく、その背景にある生活や家族、地域社会にも目を向け、多職種と協働しながら地域の課題に向き合う力を養います。

「あまべ総診」は、地域に学び、地域とともに成長しながら、日本のどこでも活躍できる総合診療医を育てるプログラムです。海部の地から、新しい総合診療の未来を切り拓く仲間との出会いを楽しみにしています。

### ★ 四国ブロック支部役員会を開催しました

四国ブロック支部長（開催当時） 阿波谷敏英

2025年4月18日（土）の新専攻医オリエンテーション・ポートフォリオ発表会に引き続き、HITO病院会議室をお借りし、四国ブロック支部役員会をハイブリッド開催しました。

議事では、2025年度事業報告および会計報告、2026年度事業計画および予算の審議が行われました。また、地方会およびポートフォリオの担当県、地方会開催マニュアル、ブロック支部会誌、ブログでの情報発信、ニュースレターの発行、等について意見交換がおこなわれました。

2025年度の会計は以下の通りです。

- |      |   |
|------|---|
| 【収入】 | 前年度繰越金 343万1,556円、本部助成金 71万円、預金利子 5,888円 計 417万7,444円   |
| 【支出】 | 地方会等助成金 27万556円、会議費 12万2,193円、消耗品費 1万2,359円、論文集印刷製本費 19万511円、役務費 9万2,965円、翌年度への繰越金 345万8,860円 |

2026年度は6月21日の社員総会以降、大倉佳宏先生が四国ブロック支部長となります。支部長、副支部長で定期的にミーティングをおこないブロック支部の方針を議論する予定とのことです。

### 四国ブロック支部公式ブログ♪

2025年4月よりブロック支部の公式ブログを運用しています。イベントのご案内など即時性の高い情報を、ホームページやニュースレターよりも、こまめに発信しています。右のQRコードからアクセスください。ブックマークして時々覗いていただくと嬉しいです。SNS等での拡散も大歓迎です。（事務局）

